

創刊にあたって

国民に身近かで利用しやすい司法への転換を求めた画期的な司法改革の一環として、2004年4月、米国のロー・スクールに範をとった法科大学院が全国に74校誕生した。

わが白鷗大学も、東キャンパスに法学の殿堂としての高層校舎を立ち上げるとともに、少数精鋭をモットーとする法科大学院をスタートさせた。

法律学の生命は論理であり、法律上の論争は論理と論理のたたかいである。ゆえに論理性の高いことが尊ばれる点において、法律学はあらゆる学問の中で最たるものであるといってよい。そのことは学問研究の場だけでなく、実務の世界においてもいえるのであって、法律実務は、他の社会科学の分野と異なり、ポリシーの前にロジックの確かさが要請される。

本紀要は、白鷗大学法科大学院における法曹教育に直接・間接関与する方々に、その実践的な研究成果を発表し、論議を重ねる場を提供しようとするものである。

本誌が、関係各位の切磋琢磨の場となり、より精緻で豊かな議論が展開されることを願ってやまない。

本紀要発刊の推進力になって下さった大石和彦教授に深く感謝して、発刊の辞とする。

2007年9月

白鷗大学法科大学院

院長 土 本 武 司